

山影進教授略歴と業績

学歴

1972年3月 東京大学教養学部卒業

1974年3月 東京大学大学院社会学研究科修士課程修了

1974年9月～76年12月, 1981年9月～82年6月

マサチューセッツ工科大学留学

1982年6月 Ph. D. in Political Science (Massachusetts Institute of Technology)

職歴

1976年12月～80年3月 京都大学東南アジア研究センター助手

1980年4月～91年3月 東京大学教養学部助教授

1991年4月～96年3月 東京大学教養学部教授

1996年4月～2012年3月 東京大学大学院総合文化研究科教授

2001年4月～06年9月 放送大学客員教授

2009年2月～11年2月 東京大学大学院総合文化研究科長・教養学部長

2012年4月～15年3月 東京大学客員教授

2012年4月～18年3月 青山学院大学国際政治経済学部教授

2013年4月～現在 早稲田大学客員教授

業績（最近刊より 2012 年刊まで）

A. 著編著書

- ・山影進（編）（2014）『アナーキーな社会の混沌と秩序：マルチエージェント国際関係論のフロンティア』書籍工房早山
- ・山影進（編）（2012）『主権国家体系の生成：「国際社会」認識の再検討』ミネルヴァ書房
- ・山影進（2012）『国際関係論講義』東京大学出版会
- ・阪本拓人・保城広至・山影進（2012）『ホワイトハウスのキューバ危機：マルチエージェント・シミュレーションで探る核戦争回避の分水嶺』書籍工房早山

B. 雑誌掲載論文

- ・光辻克馬・山影進（2018）「戦争世論形成モデル：ルイス・F・リチャードソンの戦争気分モデルのマルチエージェントモデル化」『青山国際政経論集』100, 19–62 頁
- ・山影進（2018）「南進する中国に向き合う東南アジア」『外交』48, 48–53 頁
- ・伊藤岳・山影進（2018）「実証的シミュレーションの『作法』：現実との接合と説明力の検証」*Aoyama Journal of International Studies*, No. 5, 247–267 頁
- ・光辻克馬・山影進（2017）「昭和 20 年（1945 年）8 月終戦決定過程の平行ワールド：相互作用する認知構造（ICS）モデルによる終戦会議の分析（その 2）」『青山国際政経論集』99, 27–53 頁
- ・山影進（2017）「ASEAN 外交半世紀に見る加盟国にとっての効用」『国際問題』665, 1–5 頁
- ・山影進（2017）「MAS コンペの軌跡とこれからの行方」『オペレーションズ・リサーチ 経営の科学』62 巻 8 号, 480 頁
- ・山影進（2017）「社会認識を変えたマルチエージェントシミュレーション（MAS）：文系学生にもなぜ MAS を体験させる必要があるのか」『オペレーションズ・リサーチ 経営の科学』62 巻 8 号, 481–486 頁

- ・ 光辻克馬・山影進 (2017) 「ポツダム宣言受諾への道：相互作用する認知構造 (ICS) モデルによる終戦会議の分析」『青山国際政経論集』 98, 79–117 頁
- ・ 光辻克馬・山影進 (2017) 「政党間競争のマルチエージェントモデル：ハイブリッド性のある政党の行動原理とその内生的生成」 *Aoyama Journal of International Studies*, No. 4, 209–220 頁
- ・ 光辻克馬・山影進 (2016) 「相互作用する認知構造 (ICS) モデルから捉える討議と合議：EXCOMM モデルの再定義と再吟味」『青山国際政経論集』 97, 109–144 頁
- ・ 伊藤岳・山影進 (2016) 「社会科学における実証的シミュレーション：シェリングの分居モデルの拡張と空間データの接合例」『青山国際政経論集』 96, 101–124 頁
- ・ 光辻克馬・山影進 (2016) 「第 1 次世界大戦前夜における欧州国際関係のパラレルワールドの動態：「国際緊張モデル」によるマルチエージェントシミュレーション分析 (その 3)」 *Aoyama Journal of International Studies*, No. 3, 87–108 頁
- ・ 光辻克馬・山影進 (2015) 「明治維新はどれだけ蓋然的だったのか：幕末動乱期のマルチエージェントシミュレーション (MAS) 分析 (その 2)」『青山国際政経論集』 95, 81–108 頁
- ・ Ito, Gaku and Susumu Yamakage (2015) “From KISS to TASS-modeling: a Preliminary Analysis of the Segregation Model Incorporated with Spatial Data on Chicago,” *Japanese Journal of Political Science*, 16(4), pp. 553–573.
- ・ 光辻克馬・山影進 (2015) 「幕末動乱期のマルチエージェントシミュレーション (MAS) 分析：自己駆動粒子系による統治制度動態モデル (GSSM) の構築とその応用」『青山国際政経論集』 94, 95–138 頁
- ・ 山影進 (2015) 「クオヴァディス：ASEAN への問いかけ」『国際問題』 646, 1–4 頁
- ・ 光辻克馬・山影進 (2015) 「改良版『国際緊張モデル』による第 1 次世界大戦前夜の欧州国際関係をめぐるマルチエージェントシミュレーション分析」

Aoyama Journal of International Studies, No. 2, 151-167 頁

- ・山影進 (2015) 「人工社会構築からマルチエージェント国際政治学教育へ：アクティブラーニングを通じた新しい方法へのいざないを試みて」『青山インフォメーション・サイエンス』42(1), 12-22 頁
- ・Yukawa Taku, Yoshimoto Iku and Yamakage Susumu (2014) “International Policy Diffusion at the Systemic Level: Linking micro patterns to macro dynamism,” *Journal of Theoretical Politics*, 16(2), pp. 177-196.
- ・山影進 (2014) 「『不戦レジーム』を超えて：ASEAN の政治安全保障協力をどう捉えるか」『国際法外交雑誌』113(1), 85-111 頁
- ・光辻克馬・山影進 (2014) 「第1次世界大戦前夜における欧州国際関係のパラレルワールド：ランドスケープ理論を拡張した「国際緊張モデル」によるマルチエージェントシミュレーション分析」*Aoyama Journal of International Studies*, No. 1, 79-106 頁
- ・山影進 (2012) 「マルチエージェントシミュレーションの可能性：社会科学の立ち位置から」『設計工学』47 卷 12 号, 1-8 頁
- ・山影進 (2012) 「TPP 交渉と ASEAN: なぜ ASEAN はまともらないのか」『都市問題』103, 21-25 頁

C. 単行本所収論文

- ・Yamakage, Susumu (2017) “Evolving ASEAN and Changing Roles of the Treaty of Amity and Cooperation in Southeast Asia (TAC),” Baviera, Aileen and Larry Maramis (eds.) *ASEAN @ 50 Volume 4: Building ASEAN Community: Political-Security and Socio-Cultural Reflections*, Economic Research Institute for ASEAN and East Asia, pp. 39-47.
- ・山影進 (2016) 「日本の地域構想と『中国の台頭』：歴代首相の政策演説に見る『仲間』の描き方」, 大庭三枝 (編) 『東アジアのかたち：地域秩序と統合をめぐる日米中 ASEAN の交差』千倉書房, 205-239 頁
- ・Yamakage Susumu (2014) “Developing mutually compatible identities: To-

- wards an ASEAN Community consisting of diverse people in Southeast Asia,” Kikuchi, Yasushi and Vesselin Popovski (eds.) *Building ASEAN Identity on a Transnational Dimension*, United Nations University, pp. 277–286.
- ・山影進 (2014) 「マルチエージェント国際関係論への誘い」, 山影進 (編) 『アナーキーな社会の混沌と秩序: マルチエージェント国際関係論のフロンティア』書籍工房早山, 9–26 頁
 - ・湯川拓・吉本郁・山影進 (2014) 「政策拡散とネットワーク効果」, 山影進 (編) 『アナーキーな社会の混沌と秩序: マルチエージェント国際関係論のフロンティア』書籍工房早山, 113–136 頁
 - ・光辻克馬・山影進 (2014) 「国際社会における構成員の変動と規範の交代」, 山影進 (編) 『アナーキーな社会の混沌と秩序: マルチエージェント国際関係論のフロンティア』書籍工房早山, 183–205 頁
 - ・山影進 (2013) 「外交イニシアティブの試金石: 対東南アジア外交の戦略的重要性」, 国分良成 (編) 『日本の外交 第4巻 対外政策地域編』岩波書店, 143–169 頁。
 - ・Yamakage Susumu (2013) “Quo vadis, Asiae?: Changing Japan-ASEAN relations and the future of Asian regional architecture,” Lam Peng Er (ed.), *Japan's Relations with Southeast Asia: the Fukuda Doctrine and Beyond*, Routledge, pp. 123–139.
 - ・山影進 (2013) 「東南アジア海域の安全保障と ASEAN の地域秩序構想」, 平成 24 年度外務省国際問題調査研究・提言事業報告書『アジア (特に南シナ海・インド洋) における安全保障秩序』日本国際問題研究所, 95–108 頁
 - ・山影進 (2012) 「主権国家体系生成過程への接近: 立体像を描くための語り口と切り口」, 山影進 (編) 『主権国家体系の生成: 「国際社会」認識の再検討』ミネルヴァ書房, 1–30 頁
 - ・山影進 (2012) 「ASEAN にみるいびつな鏡に映したヨーロッパ統合」, 山本吉宣・羽場久美子・押村高 (編) 『国際政治から考える東アジア共同体』ミネルヴァ書房, 113–130 頁

- ・山影進(2012)「大国を「飼い慣らす」ことをめざす小国の戦略：東南アジア諸国連合(ASEAN)の影響力に焦点を当てて」, 平成23年度外務省国際問題調査研究・提言事業報告書『日米中関係の中長期的展望』日本国際問題研究所, 139-153頁

D. その他

- ・Yamakage, Susumu (2017) “From the Two P’s to the Two C’s: the Accomplishments and Challenges of ASEAN at 50,” *AJISS Commentary*, No. 247.
- ・山影進(2016)「東南アジアの民主化をどう捉えるか：近年のインドネシア研究を中心に」『青山国際政経論集』97, 239-249頁
- ・山影進(2016)「駒場でしてもらいたくないこと, してもらいたいこと」, 東京大学教養学部教養学部報編集委員会(編)『東京大学「教養学部報」精選集』東京大学出版会, 19-21頁
- ・山影進(2013)「日・ASEAN関係：回顧と展望」『月刊FEC News』9月1日号 (Vol. 340), 3頁
- ・Yamakage, Susumu (2013) “Retrospective and Future Outlook of Japan-ASEAN Relations: Building Stronger Ties in Various Fields,” *FEC News*, September 20.
- ・伊東利勝・清水展・徳田安春・山影進・猪口孝(2013)「〈座談会〉ASEAN統合2015ビジョンと日本のASEAN研究の課題」『地域研究』13(1), 20-43頁
- ・山影進(2013)「新しいASEANと日本外交」『経団連タイムズ』2013年4月28日, 4頁
- ・高須幸雄・山影進(2012)「被災地から『人間の安全保障』を考える」(FOCUS いまこそ, 国際援助を語ろう)『外交』12, 114-121頁
- ・ピーター・カツェンスタイン(光辻克馬・山影進訳)(2012)『世界政治と地域主義：世界の上のアメリカ・ヨーロッパの中のドイツ・アジアの横の日本』書籍工房早山(原著: Peter J. Katzenstein, *A World of Regions: Asia and Europe in the American Imperium*, Cornell University Press, 2005)

山影進教授略歴と業績

- ・山影進（2012）「『刷り込み』は強かった：国際関係論との邂逅，そしてその教科書作成」『UP』474，35-40頁
- ・山影進（2012）「回顧のような，紹介のような，書評のような：駒場2号館310号室から生まれ出たものについて」『国際社会科学』61，1-13頁

以上